

流山市を例とした市の再建・振興についての研究

スポーツコミュニケーションゼミナール 1314025 古宮 陸未

1. 研究動機・研究目的

私は来年の春から流山市役所で公務員として勤める。公務員の就活で流山市の公務員を志すきっかけとして、数年前に流山市の市政がニュースに取り上げられており、かつては衰退していた街が今では人気の市になることができたその新しい市政などに私自身興味・関心を持ったことを鮮明に覚えていたためだった。そして調べていく中で流山市はニュースで取り上げられていたような新しい政策だけでなく様々な新しい挑戦や工夫をした結果現在のようなニュースにも取り上げられるほどの街になった。

流山市を調べていく中で流山市のように再建に成功し住みたいと思われるような街とはどのような街なのかということを知りたいと思った。

ここ最近 SUUMO が行っている「住みたい町ランキング」にて上位にランクインしている吉祥寺に注目し、駅を中心にほぼ半径 500m 以内に豊富なジャンル、数のショップがありグルメが堪能できるため移動距離が短くて済む「徒歩による移動性を重視し、様々な機能が比較的小さなエリアに高密に集まっている」「コンパクトシティ」でありなお文化も感じられる街であること（海老原・山崎、2012）。

他に挙げられる住みたい街に挙げられる特徴として街に住む世代や年齢・性別によってそのニーズは様々でそのニーズをうまく汲み取るための工夫、例えば自治体運営に活発な人の意見に応えるのではなく消極的な人も進んで発言できるような環境を整えること（インターネットや郵便による参加）や、自治体運営に参加したことによる特典を設けてより参加したくなる環境を整える（参加することによりその街の中での食品と交換できるポイント制度など）ことが大切である。つまり、街のために自分ができることは何かという考えを持つようになった住民と、住民と密接な関わり合いをもちより積極的に住民のニーズを拾い上げようとする自治体職員がいることによって住みたい街というものを作られていくのではないかと考えられる（長尾、2009）。

といったような住みたい街に必要であろう予想と研究、そして実際に成長した流山市の事例を用いて街の再建・振興の手助けになるような研究をしたいと考えた。

2. 研究方法

本研究は文献研究を行い、主な研究対象として、流山市や流山市の市長である井崎義治市長のホームページを用いて過去から現在まで、どのような流れがあり現在に至ったのかなどを調べた。

その流れの中で行われた具体的なことに関しては井崎義治市長の著書を用いて、何を目標とし、どのようなことを行ったかなどを分析し自分の考察を交え研究を行った。

3. 主な結果と考察

流山市の成長の理由として私は特に「市民主体の自治体運営」と「日本全体の問題に着手した流山市」というものを強く感じた。

1 つめの「市民主体の自治体運営」では井崎義治市長は就任してすぐ財政改革を行った。それまでの流山市の運営方法ではこの先 5 年もしない間に経営が破綻することが予測できたためである。そしてその財政改革を行う際に井崎市長は自身ら管理職の給与を一定期間下げることし浮いた金額を市民サービスに充てる決断や、市職員の採用を行うことを中止したりと、流山市市役所の職員が多少なりとも苦しくなるような決断をしてまでも市の改善や市民の満足を増やそうとする姿勢や、他にも情報公開をしっかりと行いその結果 5 年連続情報公開度で一位を獲得したり、市政に市民を加えることを積極的にを行い市民の意見や提案が活きたイベントや企画が行われるため流山市内はもちろん、市外の方々をも魅了できるほどの盛り上がり流山市から発信できるようになった。市民を一番に考え市民のための街づくりを目指した井崎市長だからこそ今多くの方が流山市に注目している状況を生み出したのではないだろうか。

2 つめの「日本全体の問題に着手した流山市」では流山市は市政を行うにあたり特に強く待機児童問題に取り組む方針を固めた。その中で流山市の代名詞ともいえる「駅前保育送迎ステーション」が全国で初めて流山市で行われ結果として県外の人にも流山市を選んでもらえる環境が生まれ、自然が豊富な流山市ならではの環境を整えることで親となる方々がここで育てたいと思えるような流山市を作ることが出来、結果として千葉県内の人口増加率一位という結果などを創出できたのではないかと考える。

4. 結論

本研究を進めていくにあたり先ほどの先行研究のような“コンパクトシティ”や「ニーズを汲み取る工夫」などのほかに、「住民のために動く」といった姿勢や市のみならず日本全体の問題に取り組む流山市を更に超えたニーズを満たすことでより大きな盛り上がりを生み出すことが出来るのではないかと思う。

5. 卒業論文を終えて

至らない点ばかりでたくさんご迷惑をおかけした伊藤真紀先生に本当に感謝しています。真紀先生にご指導いただいたものを社会人になっても生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。